

## 第 3 回雇用政策研究会論点（案）

## 1 総論について

## 【検討の方向性】

- ・雇用情勢の影響を受けやすい若者の雇用機会の拡大を図るための方策としては、地方での起業・社会的企業の支援等の推進が考えられるが、どのように推進していくべきか。
- ・我が国経済の先行きが不透明な中で、若者の雇用機会の拡大を図るためには、政労使一体の取り組みも必要であるが、採用活動の自由がある中で、企業に対して、どのようなことを求めていくべきか。
- ・企業の若年者採用意欲を喚起し、良質な雇用を生み出すための具体的な支援策には、どのようなものが考えられるか。

## 2 機会均等・キャリア教育の充実について

## 【検討の方向性】

## ○キャリア教育の充実

- ・学校から職場への円滑な移行を促す「キャリア教育」の更なる充実を図るためには、労働政策の観点でどのような支援が必要か。
- ・インターンシップの普及のためのガイドラインの見直しにあたっては、労働行政の観点でどのような点に留意が必要か。

### 3 雇用のミスマッチ解消について

#### 【検討の方向性】

#### ○学校とハローワークの連携強化

- ・大学とハローワークは、これまでもジョブサポーターの大学への出張相談などで効果を上げてきたが、大学とハローワークの更なる連携を図るためどのような支援体制、支援策の充実が必要か。
- ・大学、学部ごとの就職率の格差を是正するため、労働行政には、どのような支援が求められているか。

#### ○中小企業とのマッチング支援

- ・学生の大企業志向により、中小企業とのミスマッチが指摘されているが、学生の目を中小企業に向けさせるための措置はどのようなものが考えられるか。
- ・中小企業には、採用意欲はあるが学生への認知度が低い企業も多いが、そうした企業の採用活動を支援するにはどのようなものが考えられるか。企業とハローワーク、大学等の一体的な取組としてはどのような仕組みが考えられるか。
- ・学生と企業のマッチングを図る仕組みとしてどのようにジョブ・カードの活用を図るべきか。

#### ○既卒3年新卒扱いの標準化

- ・既卒3年新卒扱いの標準化を図るためにはどのような手法が有効であるか。

#### ○その他

- ・現状、大学で修得する学問と従事する職業には特に文系

において関連していない場合が多いが、関係性を強めていくか、その場合就業教育、人材育成の観点から、どのような支援が求められているか。

- ・企業の求める人材像と、未就職で卒業を余儀なくされる者の能力を接続するため、どのような就業支援が求められるか。

#### 4 キャリア・アップ支援

##### 【検討の方向性】

- ・新卒一括採用に乗れなかった非正規労働者を含む若年労働者等のキャリア形成に対して、どのような支援が有効であるか。
- ・一方で、正規雇用で働く若者についても、様々な職業能力が求められる中で、本人のキャリア形成に対するニーズも踏まえつつ、どのように能力開発を支援するのが効果的であるか。